

4～6月期

# 実質GDP年6.0%増 個人消費3期ぶりマイナス

内閣府が15日発表し、2023年4～6月期の国内総生産（GDP、季節調整済み）速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比1.5%増、この成長が1年続いた場合の

年率換算で6.0%増となりました。20年10～12月期以来の高い伸びで、3四半期連続のプラス成長。半導体不足の緩和により生産が回復した自動車などの輸出がけん引した一方、物価高で個人消費は減少しました。

実質GDPの実額は年換算で560兆7400億円で、これまで過去最高だった消費税増税前の19年7～9月期（557兆4100億円）を上回りました。輸出は3.2%増と2期ぶりにプラスとなり、全体を押し上げました。自動車の輸出増に加え、統計上は輸出に計上されるインバウンド（訪日客）の消費増も寄与しました。輸入は原油や液化天然ガス（LNG）、携帯電話などの減少で4.3%

減と3期連続マイナスとなり、GDPのプラス幅拡大につながりませんでした。個人消費は0.5%減と3期ぶりのマイナスとなりました。新型コロナウイルスの感染症上の位置付けが「5類」へ移行したことで外食や宿泊が増加した一方、物価高の影響などで飲食料品や家電製品の購入が減少しました。

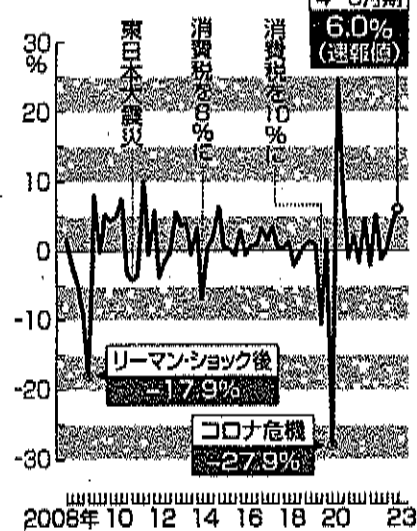
設備投資は0.03%増。ソフトウェアなどデジタル関連投資の堅調を受けて2期連続のプラスとなりましたが、伸びは小幅にとどまりました。公共投資は1.2%増で5期連続のプラスでした。GDPの増減に与える影響（寄与度）は、内需がマイナス0.3%、外需が0.8%と2期ぶりにプラスに転じました。

■4～6月期のGDP速報値

◇実質成長率	1.5	年率	6.0
◇寄与度		外需	1.8
◇主要項目		寄与度	
個人消費	▲0.5	▲0.3	
住宅投資	▲0.5	▲0.1	
設備投資	▲0.5	▲0.0	
民間在庫	▲0.5	▲0.2	
公共投資	▲0.5	▲0.1	
輸出	▲0.5	▲0.7	
輸入	▲0.5	▲1.1	
◇名目成長率	2.9	年率	12.0
◇GDPデフレーター	3.4		

(注) 数字は%。民間在庫は寄与度のみ。GDPデフレーターは前年同期比でその他は前期比。▲はマイナス

実質GDP成長率の推移  
(年率換算、季節調整済み)



2008年10 12 14 16 18 20 23  
8%と2期ぶりにプラスに転じました。